

日塗工業況観測アンケート2月の調査結果・前年比と前々年同月比

が乖離傾向

2021年2月23日

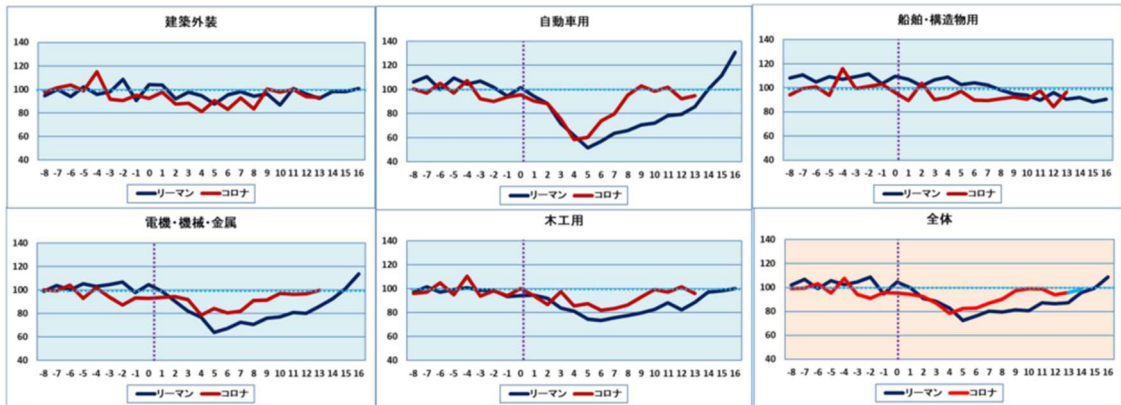
本日日塗工から業況観測アンケート2月の結果を受領いたしました。すでに組合員の皆様にはFAXでお届けをしております。2月は1月に比べ2.0ポイント回復しておりますが、1月の業況観測アンケートにおける2月の予想値98.5%よりは3ポイント弱下回っております。以下に各分野別の前年同月比(金額)の推移表を示します。

前年同月比 金額	建築外装	自動車	船舶・ 構造物	電機・機 械・金属	木工	全体	
2020年	1月	92.5	95.6	95.9	92.7	100.1	95.5
	2月	97.7	90.4	89.6	93.7	94.1	94.2
	3月	87.7	88.4	103.7	94.5	86.8	92.3
	4月	88.3	75.5	90.2	91.6	97.4	86.7
	5月	81.1	58.4	92.1	78.5	85.5	78.3
	6月	90.4	60.3	97.3	84.3	87.3	82.6
	7月	83.0	73.9	89.8	80.3	81.9	82.8
	8月	92.9	79.8	89.3	82.0	83.2	86.8
	9月	83.3	95.2	91.0	90.8	86.4	90.3
	10月	100.2	103.1	92.2	91.2	93.1	97.4
	11月	97.6	98.4	90.5	96.9	99.2	98.9
	12月	99.8	102.0	97.6	96.4	97.0	98.7
2021年	1月	94.0	92.3	84.2	96.5	101.5	93.8
	2月	93.1	94.9	96.5	99.6	95.9	95.8
2月の前々年比		91.0	85.8	86.5	93.3	90.2	90.2

分野別では、1月から見て前年同月比(金額)で、船舶・構造物が12.3ポイント、電機・機械・金属が3.1ポイント、自動車が2.6ポイントのアップとなりましたが、建築が0.9ポイント、木工が4.6ポイントのダウンとなりました。1月に比べて若干の回復は見たものの、やはり緊急事態宣言は社会全体に影響を及ぼしているようです。

毎月掲載しているリーマンショック時との対比につきましては、第3波のころから少し様相が変わってきているようです。

リーマンショック時とコロナ禍時の対比

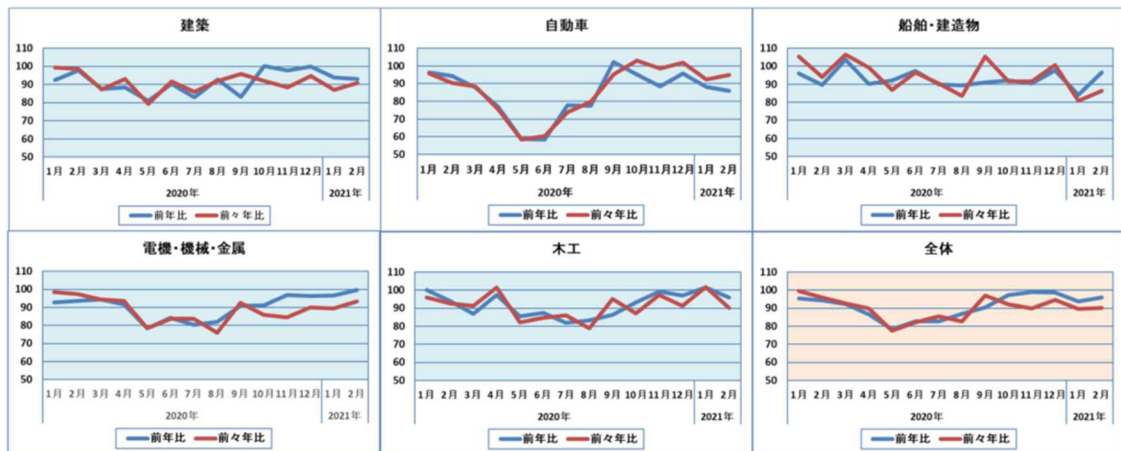


リーマン時 2008年9月を0とし、前8か月 後16か月 } の前年比（金額）を图示
 コロナ時（今回） 2020年1月を0とし、前8か月、後13ヶ月 }

昨年の11月ころまでは、特に自動車関係においてリーマンショック時よりも早い回復傾向でありましたが、その後感染拡大とともに回復の停滞が明らかになっており、現時点ではまもなく追い抜かれそうな状況になっています。やはり回復には感染の拡大抑制が必須です。

コロナ禍も国内最初の感染から1年以上が経過しました。そろそろ前年同期比という数値が平年並みという数値と同義語でなくなるころかと思い、前年比と前々年比との対比を行ってみました。

前年同月比と前々年同月比の対比



予測されたことではありますが、すでに前年同期比と前々年同期比の乖離は半年ほど前から始まっていました。2019年10月の消費税増税以降建築関係を中心に需要の低迷が起こっており、すくなくとも建築と電気・機械・金属については、前年同月比が平年比ではなくなっているのではないかと思います。自動車も逆の意味で乖離がみられています。これから4-6月にかけては、昨年大きな需要の落ち込みがみられた期間であり、前年同月比が過剰に大きな値となる可能性が大です。しばらく前年同月比と前々年同月比のデータを併記するようにしたいと思います。